



## 湘南アイパーク学生研究発表会に参加しました！

令和7年5月24日、湘南アイパークにて「湘南アイパークフェスタ2025」が開催され、そのイベントの1つとして学生研究発表会がありました。この学生研究発表会は一般公募による高校生・大学生のサイエンス研究発表会です。多数の応募の中、審査を通過し、神奈川歯科大学所属の2年生1チームがスライド発表を行いました。以下、探究タイトル、アブストラクト、発表メンバーです。

## 【探究タイトル】

「口腔再現モデルの考案と飴の溶け方についての実験的研究」

## 【アブストラクト】

幼少期に錠剤の薬を飲むことができず、やむを得ず粉末状の薬を飲む場合がある。そこで、子供が薬をより簡単に摂取しやすくするために飴を利用することはできないかと考えた。私たちは、口内モデルを作成し、飴玉にたらす食塩水の温度と量を変えて実験を行った。結果、唾液量と溶ける飴のスピードは比例することがわかった。また、温度と飴が溶けるスピードの関係は温度の変化の幅が小さかったためか、あまり関係がないことがわかった。

## 【発表メンバー】

2年1組 小田 悠加さん、2年3組 芝 奈紬さん、2年7組 成井 琴子さん、2年7組 橋本 明さん

## Q：会場の様子

A：色々な企業が集まってくるため、少し堅苦しいイメージを抱いていたのですが、予想とは裏腹に文化祭のような賑わいでした。親子連れの方も多く全体的に雰囲気も良かったです。各企業・各大学の研究している内容自体は難しいものもありましたが、それをいかにして分かりやすく伝えるかを工夫していました。特に、体験型の発表や研究で使った実物などを用いていたグループが印象的で良い学びになりました。自分達もより説得力のある発表を目指すために参考にしようと思いました。2年7組 橋本 明



## Q：興味を持った他校の発表

A：大泉高等学校の方が発表していた薬の苦みを抑える方法が最も印象に残りました。私たちのグループも薬に関連した研究を行っているので、自分たちにも活かせる部分が多いと感じました。同じ高校生の発表だったこともあり、比較的理解しやすい内容だったと思いました。この発表を通して、より良い研究をしていきたいです。

2年1組 小田 悠加

## Q：参加して成長したと感じた点

A：発表会では、アドバイザーの方々からの質問や助言、他グループの発表を通じて、自分自身の成長を実感することができました。アドバイザーの方々からは、実験方法の課題点、結果の解釈の仕方、データの扱い方などについて助言をいただき、研究を多角的・多面的に捉えることが重要性だと学びました。また、他グループの発表では、背景に共感を生む資料を提示し、聞き手の積極的に聞こう、という気持ちを引き出す工夫がされていて、参考になりました。今後の活動では、聞き手の能動的な姿勢を引き出す工夫が重要であると感じました。

2年7組 成井 琴子



## Q：参加した感想

A：専門にしている人の前で発表することは緊張しましたが、アドバイザーの方からいい意見をいただき、為になるお話もたくさん聞くことができたので、とてもおもしろかったです。研究を行っていく上でなぜこのテーマにしたのかという背景や、目的を丁寧に設定すると結果や考察をまとめる時や発表時に困ることなく、スムーズに自分たちの意見を表現できると改めて実感しました。なので、Principia IIでは背景の部分をよく考えていこうと思います。

2年3組 芝 奈紬

ポスターセッションで使用したポスターは化学室前に掲示しています。ぜひご覧ください！